

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104141		
法人名	株式会社セービング		
事業所名	グループホーム棕野式番館		
所在地	下関市棕野3丁目4-26		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町受理日	令和3年5月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と共に家族のように楽しく、ゆっくりと生活できるよう支援しています。調理の手伝い、配膳、後片付け等一緒に行い、職員も一緒に食卓を囲んで楽しく食事が出来るように支援しています。また、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑や花の世話等、家で暮らしていた時のように、一人ひとりの出来る力に合わせ、役割を持って生活できるよう、支援しています。
毎月、みんなで楽しめる行事を計画し、楽しみのある場面を提供しています。
天気の良い日はベランダや玄関先で日光浴をする等、利用者の希望を取り入れ、画一的な介護にならないようにしています。毎月ホーム便り、個人別のお便りを、写真と共に送り、ご家族に日々の生活をお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が職員と一緒に、家族のように楽しく生活できるように支援に取組まれています。利用者の思いや意向の把握に努めておられ、24時間シートに利用者の日頃の言動や本人の好きなこと、したいこと、要望などを工夫して記入され、職員間で話し合われたり、本人や家族から聞いたエピソードを「入居者様の言葉」ノートに書き留められて、利用者の思いを共有して温かく見守っておられます。家庭の中で暮らすように、洗濯物の片付けや畑や花の世話など、利用者のできることをしていただき、感謝の言葉を交わしておられます。コロナ禍で家族との交流や外出の機会が激減した状況の中で、ベランダでのパン食パーティーや流しそうめん、料理づくり、おやつづくりなど、事業所内での楽しみ行事を充実させたり、玄関前での日向ぼっこや外気浴を多く取り入れておられるなど、気分転換の支援をしておられます。職員は御家族に個別の便りをお送りして近況を伝えたり、感染対策をしたうえで玄関先で面会していただくなど、関係が途切れないように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らすということを根底とした理念を職員と作り、リビング、事務所のいつでも見えると所に掲示している。 また、理念についての研修を行い職員一同再確認を行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、法人の理念とともに事業所内に掲示し、朝礼時に法人の理念を唱和して、共有している。内部研修で年1回、理念の共有と実践について学び、話し合っ日々ケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。 利用者と一緒に回覧版を回したり、散歩時は挨拶を交わしている。 月1回の廃品回収に協力している。 現在は、新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流が出来ないでいる。	自治会に加入し、回覧板を利用者と職員が持参して回している。自治会の廃品回収(月1回)に協力している。利用者はゴミ出しや散歩の時、玄関先での日向ぼっこの時など、近隣の人と挨拶や会話を交わしている他、ベランダ越しに隣のアパートの人と話をしているなど、地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治体の方に認知症の方の理解や、支援の方法を伝えている。認知症の理解のための資料の提供も行っている。 地域の認知症の方の相談も行っている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について、全職員に説明し項目ごとに担当を決め、全職員で取り組んでいる。自己評価をすることによって、日々のケアを振り返り、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、月1回の職員会議で評価の意義について職員に説明している。評価のための書類を事務所に置き、項目を分担して、ガイド集を参考に時間があるときに記入してもらい、管理者がまとめている。職員は自己評価の過程でケアを見直し、利用者の思いを把握できるよう「24時間シート」への記入の仕方を工夫したり、重要事項説明書をよく読み、契約書について理解を深めているが、全職員が評価の意義を理解し、取り組みを活用しているとはいえない。	・全職員の評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長、民生委員、地域包括の方に参加してもらい、利用者の状況、行事報告、研修報告、事故、ヒヤリハットなどの報告をして、意見をいただき運営に活かしている。 また、地域の情報をもらい、地域との交流に活かしている。	会議は、2グループホーム合同で2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、事故・ヒヤリハット、行事、研修などの報告をし、意見交換を行っている。3月以降はコロナ禍対応のため、メンバーに事業所の状況を文書で報告し、議事録としている。玄関前は車の通りが多いので、駐車場のコーンを前方にずらし、侵入できないようにしてはどうかという意見があり、改善に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、電話やFAXで情報交換をし、助言を得るなど、協力関係を築くようになっている。 地域包括支援センター職員とは、電話や運営推進会議時、認知症カフェ参加時に、利用者や地域の状況について情報交換や相談をし、連携を図っている。	市担当者とは、書類提出で出向いた時や電話などで相談し、助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、出向いた時や運営推進会議時、電話、ファックスなどで情報交換をし、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催している。職員は身体拘束について研修をおこなっており、その内容と弊害について理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 玄関は安全上施錠しているが、外に出たい利用者は、職員と一緒に外に出て、気分転換を図っている。	権利擁護と高齢者虐待、認知症、身体拘束と高齢者虐待、接遇マナーなどをテーマに、内部研修を実施している他、6ヶ月に1回身体拘束についての研修を行っている。参加できなかった職員は記録を読んで管理者から指導を受けて、全職員が身体拘束をしないケアについて理解している。全職員と看護師をメンバーとした身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、日頃のケアを振り返り、拘束やスピーチロックのないケアに取り組んでいる。 玄関は施錠しているが、外に出たい利用者とは、職員と一緒に散歩する等、気分転換の工夫をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、高齢者虐待防止関連法案について研修し、施設内で虐待が行われないように防止に努めている。 職員にストレスチェックを行いストレスのないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護に関する制度について学習し理解を深めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書、契約書の説明を丁寧におこなっており、納得してもらっている。不安や疑問点にも納得がいくまで説明している。契約解除時も、十分な話し合いをした上で、納得していただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情や相談の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時や電話で家族からの意見や要望を聞くようにしており、その都度ケアに反映させ、対応している。	契約時に、相談や苦情の受付体制について家族に説明している。意見箱を設置している。面会時や行事(誕生日会、家族会、クリスマス会など)の参加時、電話などで、家族からの意見や要望を聞いて、法人の管理者間で検討している。意見が出やすくなるような雰囲気づくりや声かけに心がけ、コロナ禍後は感染対策をしたうえで、玄関先で面会している。利用者の様子が分かるように、月1回利用者を担当する職員が、写真やコメントを家族に送付したり、LINEを開設して、出された意見を事業所と家族、法人が共有できるよう工夫している。運営に反映させるような意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者はいつでも職員の意見を聞き、勤務体制の見直しや、意見、提案など、日々の業務に反映させている。	月1回の職員会議の他、管理者は朝礼時やヒヤリハット検討などの業務の中、雑談などで、管理者から声かけをして随時、職員からの意見や提案を聞いている。夜間は外周が暗いと意見で外灯の設置をしたり、希望に合わせた勤務の変更を行うなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、給与、労働時間の改善を行い、職場環境・条件の整備に努めている。職員の資格取得に向けた支援も行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議の中で内部研修を行っている。年間研修計画を立て、職員全員が学べるようにしている。 外部研修は、情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供している。今年度はグループホームの災害対策、認知症ケア学会、認知症における生活リハビリ講座に参加し、受講後は資料を回覧し、職員会議で復伝している。法人研修は、月2回(今年度は3月以降は中止)、同じテーマで実施して受講の機会を確保している。内部研修は、職員会議の時間を活用して月1回、法人内のグループホーム管理者が分担して作成した資料を使い、応急処置法(2回)、ノロウイルスとインフルエンザ、権利擁護と高齢者虐待について、認知症について、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて、身体拘束と高齢者虐待について、接遇マナー、理念の共有と実践、食中毒・感染症の予防と対策、脱水症・熱中症対策、緊急時(災害時)の対応について、看取りについて実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会からの情報、をもらっているが、新型コロナウイルス感染防止の為、参加できず、交流する機会がなかった。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困っていることをしっかり聴き、思いを受け止めて安心して頂くように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、家族の不安や要望をお聞きし、思いを受け止め安心して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の想い、状況を把握し、その時点で何が必要かを考え、出来る限りの対応に努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に暮らしているという関係にあり、一緒に掃除や料理、買い物を行っている。味付けや畑の知識を教えてもらうなど共に暮らす関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた時は、居室等でゆっくりと話せるように支援している。居室の衣替え等、家族に伝ってもらおう場面を作りながら、共に支えていく関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問がある時は、居室などでゆっくり話せるよう支援している。年賀状、手紙、電話などでの交流も支援している。馴染みの店での利用などこれまでの関係が途切れないように支援している。	家族の面会や親戚(兄弟、孫、遠い親戚)、友人、近所の人、同じ宗教の仲間などの来訪がある他、年賀状や電話、誕生日の贈り物などでの交流を支援している。来訪時には個室や共有スペースでくつろいで過ごせるよう雰囲気づくりに努め、コロナ禍以降は家族向けLINEを設置したり、感染対策をしたうえで、玄関先で面会している。家族交流会を年1回、開催している。家族の協力を得ての外食、商店での買い物、診療所での受診など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席やソファなどでの座る席はその時の関係性を把握し、いい関係で仲の良い人同士と一緒に過ごせるように配慮している。トラブルが起きそうなときは職員が間に入り、回避できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は、移り住む先の関係者に本人の情報を伝え、今までの暮らしの継続につながるよう支援している。退去後もご家族の相談を受け関係を断ち切らないようにしている。		
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族に基本情報シートを書いていただき、今までの暮らしや想いを把握できるようにしている。24hシートには本人の言った言葉や気持ちを書き、それを職員間で話し合い、思いを汲み取るようにしている。	入居時に家族に身体状況や暮らしの情報などを基本情報シートに書いてもらい、思いや意向に関するアセスメントシートを作成している。介護計画作成時に本人に聞いたり、24時間シートに利用者の日頃の言動や本人の好きなこと、したいこと、要望などを工夫して記入して、職員会議で振り返ったり、申し送り時に話し合っ、思いや意向の把握に努めている。本人や家族から聞いたエピソードを、「入居者様の言葉」ノートに書き留め、全職員で共有している。把握が困難な場合は家族から聞いたり職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に基本情報シートを書いていただき、今までの暮らし、生活環境の把握に努めている。また、ご本人との会話の中で教えていただき生活歴などの把握にも努めている。本人の言葉ノートを作り、日々の会話の中で、昔、どのように暮らしていたか聞き、書き留めていくようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの心身の状況の把握に努め、出来る事を一緒に少しずつ見つけていき、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にカンファレンスを開催し、本人の現状、希望する暮らし、家族の希望、医師の考えを参考にして職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。毎日の介護経過のチェックを基に6ヶ月ごと、又は状況の変化に即して、見直しをしている。	月1回の職員会議時にカンファレンスを行い、24時間シートで本人の思いや意向、家族の要望などを共有し、医師の指示や意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎日のケアチェックを基に月1回モニタリングを行い、入居後3カ月目、6ヶ月毎、介護保険更新時に見直している他、利用者の状況に変化があるときにはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個別に24hシートに記録を行い、毎日申し送りをし職員間で情報を共有している。ミーティング時に個別カンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族が安心して暮らしていけるよう医療連携体制を整えており、利用者の身体状況の変化にすぐに対応できるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や自治会など、地域の方々とかかわりや協力を得られることにより安全で豊かな社会生活が送られるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の理解を得て、内科、心療内科の協力医をかかりつけ医とし、月に二回訪問診療を受けている。訪問歯科による受診も行っている。受診結果はノートに記録し、職員間で共有し、家族にも伝えている。	本人や家族の了解を得て事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。必要に応じて、歯科の訪問診療がある。受診結果は「先生連絡ノート」、「個人ファイル」、「24時間シート」、「申し送りノート」に記載して職員間で共有し、家族には必要に応じて電話で連絡している。他科は家族の協力を得て受診支援を行い、必要に応じて事業所が支援している。事業所の看護師が週3回、訪問看護師が週1回健康チェックを行い、看護記録に記載している。緊急時には主治医と連携して救急対応を取るなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、定期的に看護師の訪問がある。毎日の健康チェック表等を参考に日々の生活へのアドバイスを受けている。緊急時は24時間体制で対応して頂いている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療に専念できるように家族や病院関係者と相談しながら早期退院できるようカンファレンスを行い、情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」や「看取りに関する指針」に基づいて、重度化や終末期に事業所の方針を説明している。必要となった場合は、本人、家族、医師と相談の上、これからの方針を決めていく。また、その都度、家族の想いを尊重していく。現在は対象者はいないが、折々に家族の意向を聞くようにしている。	契約時に「看取り(重度化した場合)における指針」を基に事業所でできることを、移設も含めて説明し同意を得ている。入居時に入居時リスク説明書や「看取り(重度化した場合)に関する指針」で説明するとともに、「急変時や終末期における医療に関する意思確認書」を交わしている。実際に重度化した場合は本人や家族、医師、職員が相談して方針を決めることとしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	万全とまでは言えないが研修などで年に一度以上は行っている。応急処置、初期対応にあたっては参考文献などをみて勉強をしている。しかし、全職員が応急手当や、初期対応の実践力を身に付けるに至っていない	事例が生じた場合は、対応した職員が発生状況や原因、改善すべき点などを、ヒヤリハット報告書や事故報告書に記録し、全職員に回覧している。職員会議やミーティングで再検討して、介護計画に反映させ、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。職員は内部研修で、応急処置法(2回)、ノロウイルスとインフルエンザ、食中毒・感染症の予防と対策、脱水症・熱中症対策などについて学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける定期的訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定で火災時の消火、通報、避難、誘導訓練を実施している。職員は避難する場所や避難の仕方などは避難訓練等で実践して身につくようにしている。災害時、地域との連絡網に自治会長に入ってもらっており、運営推進会議時に災害時の協力をお願いしている。	年1回、消防署の協力を得て、夜間を想定した消火器の使い方、通報、避難訓練を行っている。年1回、施設管理者の協力を得て自動火災報知の使い方や通報訓練などを行っている。自治会長が緊急連絡網に入っているが、地域への訓練への参加は得ていない。職員は内部研修で、緊急時(災害時)の対応について学んでいる。災害時の食料や物品の備蓄をしている。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーは配慮している。モラルやプライドなどは世代間でもずれがある為、利用者とこちらでずれがないように、相手の気持ちやプライドを傷つけないよう、気を付けて話しかけている。	職員は、内部研修で接遇マナー、認知症、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いなどについて学び、利用者に家族のような気持ちで、命令の言葉や否定する言葉を使わないように、言い回しやトーンに気をつけて言葉かけをしている。特に排泄介助時には気をつけている。気になるところがあれば、職員同士で注意しあったり、管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような状況での自己決定なのかはわからないが、なるべく本人の意思を尊重しつつ相手の想いに沿えるように援助し働きかけている。本人の表情、行動から希望や思いをくみ取るようにし、本人が自分で選べるような場面を作っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や時間を優先することなく、一人ひとりの体調や本人のペースに合わせて生活を送れるように、支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、理美容の方が来られ、本人の希望に沿ってカットやカラーが出来るように支援している。服装なども本人と話し合いながら、季節や状況にあった服が着られるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セントラルキッチンより食材が届き、それを利用者と一緒に準備をしている。配膳、下膳、お盆拭き、食器洗いなど、手伝ってもらっている。配食時、「おいしそう」と言っていたけるよう、盛り付けを工夫している。季節の行事食、誕生日のお寿司、ケーキ作り、おやつ作り等、食事が楽しみになるように支援している。	法人のセントラルキッチンから献立に合わせた旬の食材が届き、利用者一人ひとりに合わせた形状(刻み食など)で提供している。利用者は味見、盛付け、台拭き、配膳、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にして、同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。行事や季節の料理(おせち料理、ピザパーティー、春のお楽しみ会の弁当、ベランダでのパン食パーティー、七夕のかき氷、そうめん流しやスイカ、クリスマス会のフォンジュ、年越しそば、お誕生日のちらし寿司など)やおやつづくり(焼き芋、月見団子、白玉団子、ホットケーキ、カップケーキ、ゼリー、プリン、どら焼き、クッキー、あん餅、桜餅、おはぎなど)、弁当を持ってのミカン狩り、紅葉見学の時の外食、ボランティア学生との焼き芋会、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変えている。水分が摂れるように、状況によってゼリーを提供するなど、スタッフが協力し支援している。食事摂取量は健康チェック表に毎食記入し、一日を通じて確保できるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、なるべく自分で行えるよう声掛けを行い、義歯は消毒を行っている。また定期的に訪問歯科の医師より助言をいただき、実行している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24hシートや健康チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握するようにしている。一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導を行い、排泄に向けた自立支援を行っている。トイレのドアにはなじみの言葉で表示し、トイレの場所がわかりやすいように工夫している	24時間シートや健康チェック表を活用して排泄パターンを把握している。大声で呼びかけないなど、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導をして、利用者が自然に行けるように工夫して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に手作りヨーグルトやヤクルト、お茶ゼリーなど取り入れている。運動など、体を動かすことで自然な排便が出来るように取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりのタイミングや体調に合わせて声掛けを行い、ゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる方には時間を置き、入ろうと思っただけのよう声掛けをしている。利用者の体調に応じて、シャワー浴、清拭、足浴などの支援をしている。	入浴は毎日、10時30分から11時30分の間と14時から16時の間可能で、3日に1回はゆっくりと入浴でき、希望や必要に合わせていつでも入浴ができるように支援している。入浴したくない人には無理強いせず、時間をおいたり、言葉かけの工夫をしている。体調に合わせてシャワー浴や清拭、部分浴、足浴の支援をしている。好みに合わせて季節の柚子湯や菖蒲湯、入浴剤の使用などで入浴を楽しめるよう工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の様子を見て疲れていたり、ソファで傾眠されている利用者には声掛けをして、居室で休んでいただいている。夜間ゆっくり休めるように、日中は散歩や運動を取り入れるなどし、昼間の過ごし方を工夫している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前後のチェックを行い、利用者に服薬していただく前にも、別職員が目視確認を行い、服薬ミスがないようにしている。薬の説明を個人ごとにファイリングし、職員全員が把握できるようにしている。服薬後に変化や副作用などあった場合は記録をとり、職員間で共有し、医師、薬剤師に相談しアドバイスなど受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を把握して、日々を楽しく過ごせるよう支援している。毎日の畑や花の水やり、掃除、洗濯など家でやっていたことをしていただき、役割を持つことで、喜びや張りのある生活をしていただけるよう支援している。また、誕生会や季節行事、レクリエーションなど行い日々楽しめるよう支援している。	誕生日会、季節の行事(正月のお祝い、豆まき、お楽しみ会、母の日お祝い会、七夕祭り、流しそうめん、敬老会、クリスマス会、家族会、おせち料理作り)、体操(テレビ、リズム、いきいき、口腔、ラジオ)、風船バレー、ボール遊び、ピンポン球リレー、魚釣りゲーム、ゲーム、玉入れ、金魚すくい、輪投げ、トランプ、カルタ、書写、ぬり絵、ことわざ遊び、生け花、読書、皆で歌を歌う、ベランダでのシャボン玉遊び、テレビやDVDの鑑賞、映画、畑の花(パンジー、ディジーなど)や野菜(ナス、トマト、ホウレンソウ、オクラ、お多福豆、いちごなど)の植え付けや収穫、プランターの水やり、食事の準備や片付け、おやつづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、縫物(雑巾づくり)、広告紙でのごみ箱づくり、新聞紙をたたむ、ベランダや玄関の掃除、室内の掃除(モップかけ、掃除機かけ)、ゴミ出しなど、一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごとで、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナの影響で十分には実行できていないものの天気の良い日は散歩やひなたぼっこなどは継続して行っている。	ミカン狩り(久山園)、紅葉見学(功山寺)と外食、コスモス見物のドライブ、森の家での焼き芋会、ベランダでのパン食パーティー、畑の花や野菜の植え付けや収穫、プランターの水やり、日向ぼっこ、事業所周辺の散歩、家族の協力を得ての結婚式や法事への参加、墓参り、一時帰宅、外出、外食など、家族や地域の人と協力して外出できるように支援している。コロナ禍以降は、玄関前での日向ぼっこや外気浴を多く取り入れている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、少額ではあるが所持できるよう支援している。必要なものや欲しいものを買に行ったときは所持金から使えるよう支援している。 所持金がない場合も立替金より購入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族や知人に本人が電話したり、こちらから取り次いだりできるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保てるよう努力し、生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。 利用者と掃除を一緒にしたり、廊下、居間、食堂にも四季折々の飾り付けをしている。	リビングは、大きな窓からの自然光で明るく、利用者と一緒につくった季節の壁面飾りなどで季節を感じられるよう工夫をしている。対面式の台所からは調理の音や匂いが漂って生活感があり、家庭的な雰囲気がある。ベランダのプランターに花や野菜、いちごなどを植え、すぐそばの小さい畑で茄子やトマト、ほうれん草、オクラ、お多福豆などを育てている。浴室の脱衣場と洗濯室は分かれており、ゆったりと入浴できる。広いリビングや廊下にソファを設置し、利用者が思い思いにくつろげる空間となっている。温度や湿度に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング横のテラスに椅子を設置し、天気の良い日は、日光浴をしながら、仲の良い利用者同士で会話を楽しんでいる。廊下やリビングにソファが置いてあるので、気の合った利用者同士で、会話をされたり、休息されるなど、自由に過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ベッド、布団、箆笥等本人が今まで馴染んで使用されていた物を持参してもらい、心地良く落ち着いた生活ができるようにしている。家族との写真、作品、カレンダーなどを飾っており、安心して過ごせるようにしている。	ベット、寝具、小箆笥、ハンガー掛け、テレビ、テレビ台、小机、鏡台、時計、自作の木彫り作品、ぬいぐるみ、トレイ、めがね、日用品など、本人の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、本人や家族の写真、行事での写真、カレンダー、日めくり、ぬり絵作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の動線は広くとっており、廊下、トイレ内、浴室などに手すりを設置し、安全、かつ自立した生活が送れるように、工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 椋野式番館

作成日: 令和 3 年 5 月 11 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	評価の意義の理解と活用について全職員で自己評価に取り組んでいるが、全員が評価の意義を理解し、取り組みを活用しているとはいえない。	全職員の評価の意義の理解と活用	評価の意義についての研修を行い、全職員が評価を理解できるようにする。 評価を活かし日頃のケアを見直すことが出来るようにする。	1年
2	35	社内研修で応急処置の方法、感染症などの研修を行っているが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。 感染症対策をおこなう。	応急処置方法が全職員に身につくよう研修を行い、実践力を培う。 感染症対策の研修をおこなう。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。